

# 伊賀市 夢のある農業振興計画 策定業務委託

## 業務実施方針等 プレゼンテーション資料



令和7年10月24日

## ●(1) 実施方針

「持続可能で夢のある農業振興」を実現させるために、  
本市の農業を市民の「夢」・「誇り」・「憧れ」に昇華させる必要があります。

「伊賀忍者」という世界的なブランドと「世界農業遺産」という全世界的登録制度を  
結びつけることにより、「世界に誇る伊賀市農業」を実現させます。

### 実 施 方 針

- ① 市民と農業者に寄り添い、未来への機運醸成づくりを伴った調査分析・計画策定
- ② 業務実績を活かした多角的かつ論理的な現況分析と計画方針等の立案
- ③ 長期的な取り組みになることを見据えた座組形成と自走可能な環境整備

## 伊賀市の農業及び農村の現状調査、分析に関する方針

### ● (1) 現在までの取り組みと、これを踏まえた方針

- 1) 本市の農業及び農村の現況・課題を、**総合的かつ体系的に把握**する必要があります。

➤ **網羅的かつ効果的**な現状調査、分析を実施します。

- 2) 施策・事業の検討のために必要となる情報収集について、先行事例等の文献収集のみならず、アンケート・ヒアリング・ワークショップといった手法を用います。

➤ **伊賀市固有の二ーズを把握することで、より実現性の高い施策・事業を提案**します。

➤ 現状調査、分析の段階から市民を参画させることにより、**市民の当事者意識を促し、計画策定後の施策・事業の着実な進捗**を図ります。

#### 第3次伊賀市総合計画

将来像：すべてのひとが輝く 地域が輝く  
～みんなで話そう 伊賀市の未来～

産業振興条例

食育推進計画

#### 夢のある農業振興計画

有機農業実施計画

水田収益力強化ビジョン

農業経営基盤の強化の促進に関する基本的な構想

地域計画

農業振興地域整備計画

## ● (2) 具体的な調査内容・データ活用の提案

### 1) 農業等の現況と動向の分析

- 消費の動向、販路の状況等、インターネット上で公開されていない必要情報については、**関係機関からの収集、農業関係団体等へのヒアリング等**を通じ、順次情報を入手します。

#### ① 問診結果表への整理

- 現状調査・分析結果を、1枚の「**問診結果表**」に取りまとめます。
- 本市の現況を一覧把握することが可能になります。**

| 項目 | ○年 | ○年 | 増減率 | 増減理由  | 診断 |
|----|----|----|-----|-------|----|
| ○○ | ○○ | ○○ | ○%  | ○○○○○ | A  |
| ○○ | ○○ | ○○ | △○% | ○○○○○ | C  |
| ○○ | ○○ | ○○ | ○%  | ○○○○○ | B  |

#### ② 統計調査の整理フォーマットの作成

- 現況統計調査は、当社のノウハウを生かして図表作成のExcel表フォーマットを作成します。
- 計画更新を見据えて、業務完了後も**発注者が容易に時点更新することが可能になります。**



### ● (2) 具体的な調査内容・データ活用の提案

#### 2) 上位・関連計画等の整理

- ・ 県・市・JA等関係機関による各種振興計画との整合を図るため、その内容を整理します。
- ・ 具体的な計画進捗状況等、インターネット上で公開されていない必要情報については、適宜関係機関からの情報収集、聞き取り等を実施します。

##### ① 共通項ごとの整理

- ・ 上位・関連計画の内容を一枚の表に**共通項**ごと横断的に整理します。
- ・ **共通項**：「食料安全保障の確保」「環境と調和のとれた食料システムの確立」「農業の持続的な発展」「農村の振興」
- ・ **本計画が整合を図るべき内容**の、**一覧把握が可能**になります。

| 計画名  | 食料 | 環境 | 農業 | 農村 |
|------|----|----|----|----|
| 〇〇計画 | 〇〇 | 〇〇 | 〇〇 |    |
| 〇〇計画 |    | 〇〇 | 〇〇 | 〇〇 |
| 〇〇計画 |    | 〇〇 | 〇〇 | 〇〇 |

## 伊賀市の農業及び農村の現状調査、分析に関する方針

### ● (2) 具体的な調査内容・データ活用の提案

#### 3) 現地調査（自主提案）

- ・本市の農業・農村のリアルな現場を肌で感じ、農業関係団体や市民、策定委員との実りある意見交換を展開するため、現地調査を追加実施します。
- ・令和7年度の秋冬期、令和8年度の春夏期の2期に分けて、複数回実施します。

#### 4) 農業関係者等への調査（アンケート調査）

- ・アンケートにより、伊賀市農業者ニーズの傾向を把握します。
- ・アンケート調査結果は、単純・クロス集計を行い、各項目、図表にて集計結果を整理→考察します。
- ・アンケート調査報告書として取りまとめることで、各種説明資料として柔軟な活用が可能になります。

### ● (2) 具体的な調査内容・データ活用の提案

#### 4) 農業関係者等への調査（アンケート調査）

##### ①直近類似調査との重複への配慮

- ・ 市民の調査疲れを防ぎ、アンケート回答率の向上を図ります。
- ・ 直近類似調査を確認し、直近類似調査との重複がないように留意して調査項目を設計します。

##### ②回答しやすい調査項目設計

- ・ 市民の回答意欲の低減を防ぐため、調査項目数を必要最小限とします。
- ・ 回答しやすいように、論理的な質問順序、選択肢の適切な設定、わかりやすい表現・説明等に留意します。

##### ③インセンティブの設定（自主提案）

- ・ アンケート回答者へ地元特産品の抽選プレゼントを行い、回答率の向上を図ります。
- ・ プレゼントの手配及び当選者への配布は、当社負担にて行います。

### ● (2) 具体的な調査内容・データ活用の提案

#### 5) 農業関係団体等へのヒアリング

- ・ ヒアリングにより、伊賀市を取り巻く最新の農業動向の把握精度を高めます。
  - ・ 発注者様と協議の上、速やかに**ヒアリング調査対象者案を整理**します。
  - ・ 農業生産関係者や加工・流通・販売関係者等、**幅広い関係者へ聞き取りを行います**。
- ※必要に応じて、団体に加えて個人経営体等にもヒアリングを行う

#### ①調査項目一覧表の作成

- ・ 計画策定後に庁内担当係や農業関係団体等へヒアリングすべき項目を整理した一覧表を作成します。
- ・ 業務完了後も、発注者が本計画の目標達成状況等を庁内担当係や農業関係団体等へ確認し、**計画進捗状況の評価を円滑に行うことが可能**になります。

## 伊賀市の農業及び農村の現状調査、分析に関する方針

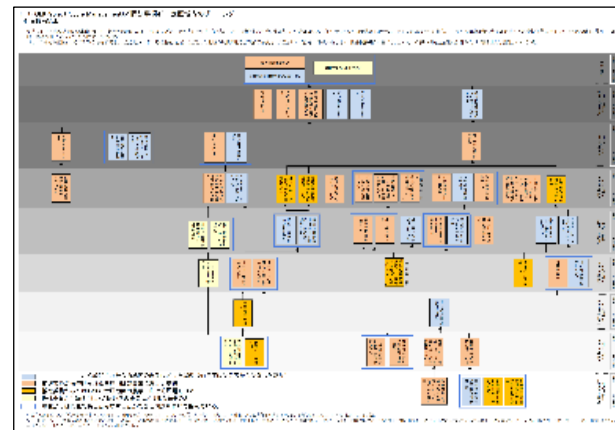
### ● (2) 具体的な調査内容・データ活用の提案

#### 6) 農業振興に係る課題の抽出・整理

- ・ 農業振興を「担い手確保」、「農地保全」、「園芸作物振興」、「鳥獣被害対策」、「有機農業の普及拡大」、「スマート農業の普及拡大」等の施策ごとに分類し、それぞれにおける課題を整理します。
- ・ 計画の実現性を高めるため、**課題の優先度を設定**します。

#### ① ロジックツリーの活用

- ・ ワークショップ等にて抽出された農業・農村振興に係る課題を、論理的かつ視覚的に分かりやすく整理します。
- ・ これにより、**課題解決の優先度付けなどが容易**になります。



## 伊賀市の農業及び農村の現状調査、分析に関する方針

### ● (2) 具体的な調査内容・データ活用の提案

#### 7) 伊賀市夢のある農業振興計画策定委員会

- ・ 策定委員会の議題は、以下を想定します。
- ・ 第1回及び第2回を現状分析期間中に実施し、後述するタウンミーティングとともに、現状分析を補完します。

| 回   | 議題案            |
|-----|----------------|
| 第3回 | 本市農業・農村の課題の抽出  |
| 第4回 | 現況・課題の分析結果の確認  |
| 第5回 | 基本方針・施策・事業の確認① |
| 第6回 | 基本方針・施策・事業の確認② |
| 第7回 | 中間案の確認         |
| 第8回 | 最終案の確認         |



#### 第3回委員会：提案内容

基礎調査の中間取りまとめ結果をもとに、委員各位より伊賀市農業・農村における課題を伺います。

#### 第4回委員会：提案内容

基礎調査の取りまとめ結果、計画の骨子案、主要施策及び事業の方向性素案を提示し、委員各位からの意見を伺います。

### ● (2) 具体的な調査内容・データ活用の提案

#### 8) 本計画中間案等のタウンミーティング

##### ①議題の設定

- ・タウンミーティングでは、限られた時間の中で有意義な結果を得ることを目的に、発注者様と協議のもと、議題を設計します。

##### ②現状分析に係る追加回の実施（自主提案）

- ・市民参加によるタウンミーティングを伊賀市農業のリアルな現況・課題を市民から直接聞く機会と捉え、**現状分析を補完**します。
- ・現状分析に市民を参画させることにより、**市民の当事者意識を促し、計画策定への機運を醸成**します。

| 回   | ワークショップ内容                      |
|-----|--------------------------------|
| 1回目 | 現況・課題の抽出                       |
| 2回目 | ロジックツリーを用いた現況・課題の因果関係・解決優先度の確認 |

##### ③主要施策や事業の検討に係る追加回の実施（自主提案）

###### a)「担い手の確保」方策の検討に係る追加回の実施

若者世代を対象に、「**次世代の担い手確保**」に係る施策の方向性を検討するためのタウンミーティングを追加実施します。

###### b)「文化の継承」方策の検討に係る追加回の実施

若者世代を対象に、「**伊賀文化を知る体験**」に係る施策の方向性を検討するためのタウンミーティングを追加実施します。

# 伊賀市の農業及び農村の現状調査、分析に関する方針

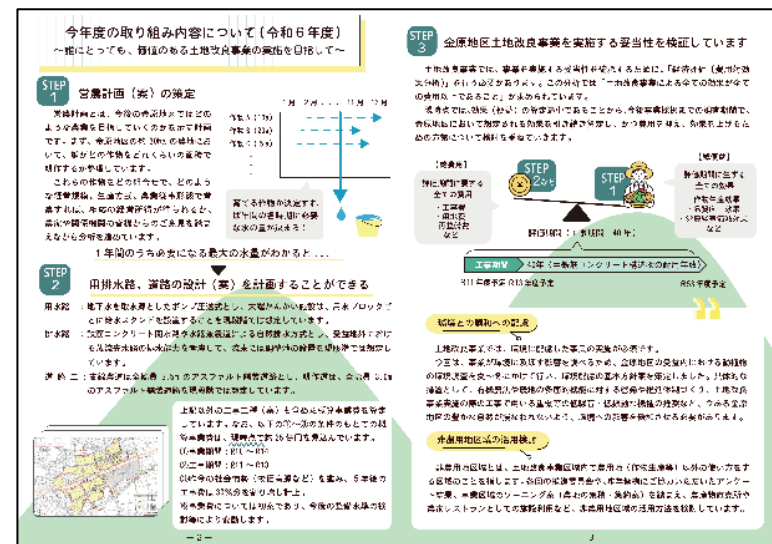
## ● (2) 具体的な調査内容・データ活用の提案

### 8) 本計画中間案等のタウンミーティング

#### ④かわら版の作成（自主提案）

- ・タウンミーティングの結果や計画の検討経過、計画策定までの予定などを、「かわら版」に取りまとめ、市民に配布します。
- ・これにより、**計画策定への市民の関心を引き出し、タウンミーティング各回への参加を促します。**

※当社では、県営土地改良事業の実現に向けて、受益地権者に向けて事業計画の調査・検討経過を取りまとめた「**かわら版**」を発行し、**機運醸成に寄与している実績**があるため、この経験を本業務にも生かします。



## ● (1) 現在までの取り組みと課題

### 現在までの取り組み

- ・ 農地の区画整理や農道、用排水路の整備などの**農業生産基盤の強化**
  - ・ 新しいビジネスモデルの検討による、**販路拡大、開拓の検討**
- (6次産業化、地産地消、農商工・農福連携など)
- ・ 集落営農組織の立ち上げ、運営の支援
  - ・ **新規就農者研修**
  - ・ 市内農業公園での**農業体験の提供**
  - ・ **地域産品のブランド化と情報発信**
- など

### 課題

- ・ 他産業と比べて所得が低く、農業を続けることが困難
- ・ 後継者、担い手不足  
(本市の農家数は過去10年で約3割減少、後継者を確保していない農業経営体も全体の7割を占めています)
- ・ 他の産地との差別化や競争力強化



- ・ 「稼ぐ農業」への転換
- ・ 「担い手の確保」に向けて、担い手の裾野を広げる
- ・ 地元産農畜産物のさらなる「付加価値の向上」

## 3

## 伊賀市の農業振興のための方策

## ● (1) 現在までの取り組みと課題

夢のある農業 = 伊賀市の特性を活かした持続可能な農業振興

## 図 伊賀市農業振興のための方策

  …提案書にて特に記載のある提案内容

夢のある農業振興の将来像  
「世界に誇る伊賀市農業」

伊賀市らしい  
持続可能な  
農業振興

「稼ぐ農業」の推進

・・・

先進的な農業経営モデルの構築  
地元農畜産物・有機農産物の販路開拓・拡大

強固な生産基盤の整備

・・・

基盤整備の推進、適切な農業用施設の管理

担い手の確保

・・・

次世代の担い手確保に向けた農業教育

伊賀ブランドの  
付加価値の向上

・・・

選ばれる伊賀ブランドとしての新戦略

環境保全型農業の実施

・・・

地産地消の推進

## 3

## 伊賀市の農業振興のための方策

### ● (2) 伊賀市の農業振興のための方策

#### 1) 「稼ぐ農業」の推進

市内農家が安定した所得を得られるよう、**農畜産物の品質向上**や**ICT・スマート農業技術の導入**による**効率化**を進め、**持続可能な農業経営の実現**を目指します。

#### ① 先進的な農業経営モデルの構築

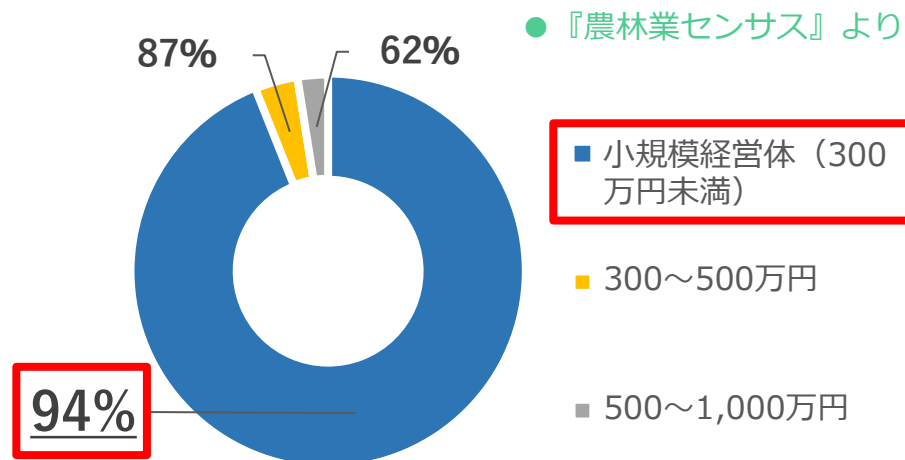
本業務では、地域農業の活性化と農家の安定収入を目指し、「農業経営モデル」を構築します。

地域の実情に合った現実的な内容とし、農家が安心して営農できる環境づくりを支援します。

#### ② 地元農畜産物・有機農産物の販路開拓・拡大

本業務では、伊賀市内の農業関係団体や農家に対して、販路の現状や課題、要望をヒアリング・調査し、課題を整理・可視化します。その結果を整理し、販路拡大に向けた支援策を検討・提示します。

〈 販売額別市内の農業経営体数 〉



本市の小規模経営体が 大部分を占めている

## 伊賀市の農業振興のための方策

### ● (2) 伊賀市の農業振興のための方策

#### 2) 担い手の確保

市内農業の衰退を防ぐためには、新規就農者の確保、企業の農業参入、外国人材の活用などの**担い手確保策**が必要です。特に**若い世代が農業に興味を持てる**よう、学校教育を通じて農業の魅力や可能性を伝え、**農業を身近に感じられる環境づくり**を行います。

#### ① 次世代の担い手確保に向けた、農業教育の検討

本業務では、農業に関わりの少ない市内の若手世代を対象に、若手農業経営者から農業の魅力や可能性を発信するワークショップを企画・運営します。

担い手不足の現状など農地が直面する課題が地域全体に関わる問題であることを再認識する場として、農地が果たす多面的な機能や役割についても紹介します。

図 ワークショップの実施イメージ



### ● (2) 伊賀市の農業振興のための方策

#### 3) 伊賀ブランドの付加価値の向上

本市の質の高い農畜産物を他産地と差別化し競争力を高めるために、さらなる**付加価値の向上**とその魅力を的確に発信します。

#### ① 選ばれる伊賀ブランドとしての新戦略

伊賀市の農業の現状を把握するため、関連計画や統計資料を調査し、生産状況や施設整備の実態を確認します。

また、JAいがふるさとの大型直売所「ひぞっこ」で利用者アンケートを実施し、消費者ニーズを調査します。

これらの情報をもとに、伊賀市産の農畜産物の魅力を再定義し、消費者に選ばれるブランドづくりと、生産者の所得向上につながる戦略的なロードマップを作成します。

図 アンケート調査の実施イメージ



## ● (1) 現在までの取り組みと課題

【背景】 ・ 人口減少に伴う空き家、空き店舗の増加 ・ 地域の活力や文化資源の低下 ・ 高齢者の孤立感

### 現在までの取り組み

#### 農村地域

- ・ 農業集落排水事業を通じた資源の循環
- ・ 合併処理浄化槽や排水処理施設の整備
  - ▶ 水質の保全や生活環境の向上へ
- ・ 農村総合整備事業  
(ほ場整備、農道・排水路の改修、農村公園の整備)  
⇒ 農業の生産性・安全性の向上、住民の憩いの場づくりへ

#### 中心市街地

- ・ 空き家の活用や観光施設整備
  - ▶ 地域の賑わいの創出へ
- ・ 関係人口の創出や移住促進などを行うコミュニティの形成
  - ▶ 若者や女性が農業に関わりやすい環境づくりへ

### 課題

- ・ 人口減少に伴う農業や地域活動の担い手不足
- ・ 遊休農地や荒廃農地の増加、里山の荒廃
- ・ 生活基盤の低下



市民が安心・快適に暮らし  
続けられる農村づくり

- ・ 中心市街地の賑わい創出の機会を農村地域の賑わい創出に生かせていない



伊賀文化を市民の「誇り」「夢」  
「愛着」へと昇華させる農村づくり

● (1) 現在までの取り組みと課題

夢のある農村 = 都市住民からも憧れが集まる農村

図 伊賀市農村振興のための方策

  …提案書にて特に記載のある提案内容

夢のある農業振興の将来像  
「世界に誇る伊賀市農業」

憧れが集まる  
農村振興

集落環境の維持

...

生活基盤の整備・荒廃農地、遊休農地の活用

鳥獣被害対策

...

有害鳥獣の捕獲と防除

地域コミュニティの  
活性化

...

空き家、空き店舗の活用・農業サロンの構築

農村型地域運営組織（農村RMO）の推進

文化の継承

...

世界農業遺産登録の推進  
「知る体験」、「感じる体験」の推進

多面的機能の  
維持・発揮

...

生物多様性の維持・自然環境の保全

## 伊賀市の農村振興のための方策

### ● (2) 伊賀市の農村振興のための方策

#### 1) 集落環境の維持

農村地域が持つ機能や価値を振興していくために欠かせない農村人口を維持します。

##### ① 生活基盤の整備の推進

生活サービスの維持と利便性向上により、地域住民が安全に暮らし続けられる環境を整えます。



##### ② 荒廃農地や遊休農地の活用の推進

農地の活用では、地域ぐるみによる保全管理を進め、農業・農村の多面的機能が維持・発揮されるよう取り組みます。



## 伊賀市の農村振興のための方策

### ● (2) 伊賀市の農村振興のための方策

#### 2) 地域コミュニティ・出会いの場の創出

世代を超えた住民同士のつながりを創出し、暮らしの質を向上させます。

##### ① 空き家・空き店舗の活用

農村地域の空き家・空き店舗を活用し、**中心市街地と農村地域の人をつなぐ場**を創出し、持続可能なコミュニティ形成を目指します。

##### ② 農業サロンの構築

農業者同士が**つながり、学び合い、支え合える**空間を構築します。

**市民が農業の魅力を身近に感じられる場**としても活用できるよう、本市に適した農業サロンの開催方法や活用モデルを検討し提案します。



## 4

## 伊賀市の農村振興のための方策

## ● (2) 伊賀市の農村振興のための方策

## 3) 世界農業遺産登録の推進

伊賀文化を「農業遺産」として再評価し、世界に誇る伊賀市を目指します。

## ① 世界農業遺産登録に向けた推進委員会の設立

## 【登録の可能性】

- ・伊賀独自の地域資源を有し、自然・歴史・暮らしが調和した持続可能な地域づくりが進められている
- ・忍者の生活技術には薬草栽培や里山管理など農業的知恵が含まれている
- ・産学官民の連携や住民参画が活発



認定の可能性◎

## 【意義】

- ① 地域資源が再評価され、誇りと持続可能なまちづくりへ
- ② 多様な人材の参画により、地域課題などを多角的に捉えられる
- ③ 共通ビジョンの形成により、協働の基盤が育まれる

本業務では、世界農業遺産を専門とする学識経験者と連携します

図 農林水産業システムイメージ  
(能登の里山里海)



## 伊賀市の農村振興のための方策

### ● (2) 伊賀市の農村振興のための方策

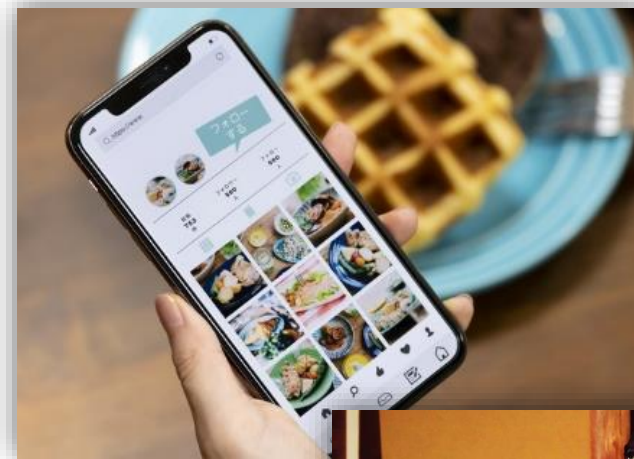
#### 3) 世界農業遺産登録の推進

##### ② 「知る体験」の推進

地域の歴史や伝統を次世代へ継承するため、本業務での現地調査やワークショップを通じて市民や若者の視点を取り入れ、共感性の高い情報発信の推進を図ります。

##### ③ 「感じる体験」の推進

伊賀独自の地域資源を、実際に体験してもらう「感じる体験」では、農業体験や兼業農家であった忍者の生活スタイルを参考にした週末農業など、伊賀らしい新たな文化体験型事業の検討を進めていきます。



### ● (3) 多面的機能の維持・発揮

農業の営みは、生物多様性の維持や自然環境の保全といった  
**多面的機能**を担っています。



しかし、農業の持つ価値や意義について十分に理解している  
市民は多くありません。



世界農業遺産への登録に向けた取り組みなどを通じて、  
農業を継続していくことの**社会的な意義**を広く伝えていくことが求められます。  
農業に直接関わっているかどうかに関係なく、  
**地域全体で農地を守り、次世代へ継承していく姿勢**が重要です。